

1月はいく。2月は逃げる。3月はさる。古の言葉はとっても奥が深い。そして、このころになると、この言葉を必ず思い出す。そのたびに（1月がいったよ）と振り返る▼今日降った雪は、さらさらふわふわで、なかなか固まらない雪だった。朝、正門の前で登校してくる子どもたちを待ちながら小さな雪だるまを作っていたけれどもなかなか思うように固まらない▼数人の子が、歩きながら作ってきた雪玉を「校長先生どうぞ」と手渡してくれたおかげで、たくさんの小さな雪だるまが門の横の植え込み花壇の上に並んだ。▼先週の大雪では、学校を休校にしたが、その日の雪は、雪だるまを作るには、適した雪質だった。校庭のあちらこちらに雪だるまが見られると期待していたが、残念だった▼ある学校の校長先生が、「安全を考えて通学路の雪かきをするのだけでも、子どもは雪かきをしていないところを歩きたがる」と言っていた▼鳥坂を見下ろしながら、ここをそりで滑っていったらきっと楽しいだろうなと思ってしまったわたしは、その子どもの行動に大賛成▼しかし、子どもの安全を考えると、諸手をあげて奨励することはできない。怪我をして痛みを覚えて子どもは育つとはいえ、命にかえられるものはない。子どもを危険にさらして、「教育」とは言えないが、空に向かって口をあけ、雪と一緒に食べるぐらいは、大目に見てほしい。